

諏訪湖のコハクチョウ (6)

林 俊 夫

諏訪湖のコハクチョウについては、会報の7号、8号、9号、10号にだんだん述べてきたが、その後が続かず間が空いてしまった。今回は一応今までの様子をまとめて述べる事とする。

まず渡来数の様子は別表1の通りである。給餌を始めたのは1982年の12月からだが、翌1983年から順次増加して、1985年、1986年には100羽を越え、このまま行けばと期待されたが、その後は増加せず、1990年の126羽を最高に、減少の傾向といえる。

表(1) 飛 来 越 冬 状 況

コハクチョウの越冬状況

シーズン	西暦1900	初飛来確認日	最終北帰行日	滞在日数	飛 来 数	備 考
1	74-75	49. 11. 11	50. 4. 1	142日	2羽	
2	75-76	50. 11. 11	51. 3. 16	127	3	
3	76-77	51. 11. 10	52. 3. 28	139	5	
4	77-78	52. 12. 14	53. 4. 1	109	7	
5	78-79	53. 11. 23	54. 3. 23	121	6	
6	79-80	54. 11. 13	55. 3. 21	130	10	
7	80-81	55. 11. 11	66. 4. 8	149	12	
8	81-82	56. 10. 31	57. 3. 30	151	9	
9	82-83	57. 10. 30	58. 3. 20	142	10	餌付けを始める
10	83-84	58. 11. 1	59. 4. 24	176	40	餌付け
11	84-85	59. 10. 30	60. 3. 17	139	51	餌付け
12	85-86	60. 10. 25	61. 3. 13	140	107	餌付け
13	86-87	61. 10. 21	62. 3. 22	149	104	餌付け
14	87-88	62. 10. 26	63. 3. 7	139	90	餌付け
15	88-89	63. 10. 22	元. 2. 27	129	85	餌付け
16	89-90	元. 10. 30	2. 3. 6	119	68	餌付け
17	90-91	2. 10. 22	3. 3. 16	146	126	餌付け
18	91-92	3. 11. 3	4. 2. 29	119	73	餌付け
19	92-93	4. 10. 22	5. 3. 12	142	58	餌付け
20	93-94	5. 10. 21	6. 3. 22	144	94	餌付け

飛来数の減少の原因は、

1. 暖冬で湖水が結氷せず、漁船、釣舟などがたくさん出る事。
2. 奇数日の銃猟が行われている事。

3. 飛来コースの途中に犀川田沢湖など給餌をしている新しいところがあり、諏訪湖より条件が良い事。

などが考えられる。

田沢湖は約300羽、その下流の御宝田が本年は100羽を越える様になっている。

コハクチョウのつがいの継続や、引率幼鳥数の様子など、私が注目してきた研究も、すわおファミリー、とよひこファミリーに続いて、のり子ファミリーによってなお引続いて観察され、何とか一応の結果が出る事と思うが、私も本年満81歳となり、体力も衰え、観察に現地に行く事もなくなり、厚木市の娘のところへ転居したりで、今後は諏訪湖白鳥の会の全ておまかせとなり残念ながら私の研究は一応中断となる。

しかし、諏訪湖白鳥の会会員の代田きぬさんや長野日報記者の日比野真由美女史などにより観察され、また日比野さんの長野日報「白鳥日記」により報告もされるので、今後も、とよひこファミリーやのり子ファミリーの飛来飛去の状況が報知されるので、両角保雄事務局長によりまとめられる事と期待される。

飛来数はあまり増加しないけれども、諏訪湖白鳥の会の会員は、飛来地の環境整備や給餌作業に一致協力して活動している。また地方事務所や建設事務所、市役所などもそれぞれ応援してくれ、日本野鳥の会諏訪支部などによる銃猟禁止のキャンペーンなどが行われ、カモ類の採餌調査が行われ、カモ類による魚類の採餌状況も明らかになり銃猟禁止の世論も高まって来ている。

しかし諏訪湖は種々の方面に利用されていて、白鳥のみ保護される事は困難で、あまり期待できない状況である。

白鳥の会の会員は、新潟県や福島県へ視察に行ったりして、給餌より自然餌の増殖の必要を痛感し、マコモの移植なども行っている。また本田清日本白鳥の会会長の勧誘に従ってチャウン湾やコリマ川河口の視察に同行した桑本和一氏などの視察報告、日比野女子の新潟県へ出張取材なども行われ、ハクチョウに対する、関心、研究熱も高まっている。

表(2) 活 動 等 記 録

年 月 日	活 動 内 容 等
5. 10. 14	・豊科町犀川ダム湖に第1陣飛来 1羽
5. 10. 17	・横河川右岸柵作り、草刈及びごみ集め ・横河川左岸ネット張、草刈及びごみ集め、柳枝切り、餌整理
5. 10. 19	・早朝白鳥9羽飛来 横河川上空を旋回し飛去
5. 10. 21	・諏訪湖豊田沖にて幼鳥1羽確認
5. 10. 29	・17羽飛来(成鳥10、幼鳥7)とよひこファミリー、わかたけ、元気君
5. 10. 31	・午前7時30分頃17羽北方向へ飛去
5. 11. 10	・早朝白鳥12羽飛来横河川河口に着水・とよひこ・とよこファミリー、幼鳥1羽12年目・わかたけファミリーも飛来
5. 11. 13	・定例会 湖上前面禁猟アピール決議
5. 11. 14	・幼鳥1羽くちばし大怪我発生
5. 11. 15	・狩猟解禁日、横河川河口より湖上監視
5. 11. 19	・白鳥(とよひこ)釣糸受難
5. 12. 27	・諏訪湖に住む鳥を標示した鳥図板が当会に寄贈された 寄贈者 岡谷エコロータリークラブ会長 宮坂 勝彦 殿 社会奉仕委員会委員長 小口 登 殿
6. 1. 8	・とん汁会準備(具、材料等仕込) ・白鳥の会新年会 1/8、9 13人出席
6. 1. 9	・とん汁会(約400食) ・1月定例会(とん汁会終了後)
6. 1. 14	・白鳥1羽急死午後4時頃 岡谷動物病院にてレントゲン等で死因を調べたが不明。 日本獣医畜産大学に調査依頼(6.1.16) ・ガン、カモ類全国一斉調査(諏訪地方事務所)
6. 2. 17	・釣針、釣糸から水鳥を守る注意立看板を湊から諏訪湖ハイツの間で釣りのポイントになる10ヶ所を選んで設置(岡谷市役所)
6. 3. 11	・北帰行始まる。第1陣 6:30 31羽(成鳥22羽、幼鳥9羽)
6. 3. 12	・定例会(会報等について)
6. 3. 22	・最終北帰行
6. 3. 27	・柵等かたづけ
6. 5. 14	・定例会 増沢会長 諏訪湖ハイツ支配人を勇退し、山崎善朗新会長 諏訪湖ハイツ支配人就任(6.4.1)
6. 6. 11	・シベリア白鳥観察者の壮行会 6/11、12

シベリアで白鳥観察

抱卵や子育てつづさに

下諏訪の鼻本さん 一般市民で国内初 研究所訪問団に参加

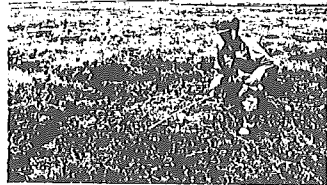
北極圏の自然環境を研究する「シベリア社会」のメンバー、下諏訪市在住の鼻本さん(57)が、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。鼻本さんは、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。

識別鳥の子育て発見 クルサゲ

鼻本さんは、下諏訪市在住の鼻本さん(57)が、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。鼻本さんは、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。



子育てを撮影、初撮影された識別鳥「062C」



コハクチョウの巣にある卵を観察する鼻本さん

1994. 8. 11

千石川北へ、北極圏の自然環境を研究する「シベリア社会」のメンバー、下諏訪市在住の鼻本さん(57)が、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。鼻本さんは、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。



北極圏に向けて、湖上を飛ぶコハクチョウ

31羽、シベリアへ旅立つ

ほぼ例年通り 北帰行始まる

毎年例年通り、北極圏の自然環境を研究する「シベリア社会」のメンバー、下諏訪市在住の鼻本さん(57)が、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。鼻本さんは、一般市民として国内初の「シベリア社会」の研究所訪問団に参加し、シベリアの自然環境を研究する。

1994. 3. 12

冬の使者たち

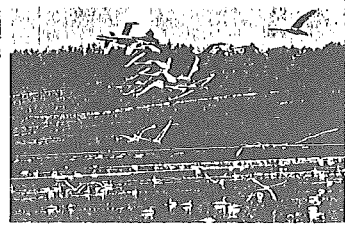
新潟リポート

自然環境保護を推進する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。

利少ない諏訪湖に来る白鳥

すめる自然守りたい

「白鳥」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。



11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。

1994年(平成6年) 3月29日 火曜日



総集編

新潟県自然環境保護協会
白鳥日記
白鳥湖
白鳥日記

受難

環境汚染が深刻化している。新潟県自然環境保護協会が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。



釣り糸を金魚に絡め、水辺を駆け回るミコアイサの雄



飛来船もなく、くちばしがそげ、市民を驚かせた初鳥

釣り針・糸の被害相次ぐ

釣り針・糸の被害相次ぐ。新潟県自然環境保護協会が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。

今春は、釣り針・糸の被害相次ぐ。新潟県自然環境保護協会が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。視察先は、新潟県自然環境保護協会の協賛で、新潟県自然環境保護協会が主催する「新潟県自然環境保護協会」が、11月10日、11日、12日の3日、県内各地の自然環境を視察した。

1994. 3. 29

